

① はまなか

議会だより

NO123

平成30年1月15日発行



親子でべったん（姉別保育所）

12月定例会

予審	算議	コンビニ収納実施の成果は	3P~6P
一質	般問	3人の議員が町政を問う	9P~11P
		雲外蒼天（荒矢 麗奈さん）	12P

年頭にあたって



浜中町議会議長

波岡玄智

輝かしい平成30年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年10月、突然の解散劇で自民党圧勝、解散直前に希望の党が結成され、紆余曲折を経て民進党は分裂し、政界は健全な二大政党論には程多い様相を呈しております。

12月8日特別国会が閉幕しました。与野党ともに森友、加計問題を巡り論争しましたが、どちらに軍配を上げてよいやら分からない状態で終えております。会期末、政府は「人づくり改革」と「生産性革命」を閣議決定しました。その中で、3歳〜5歳児の幼児教育・保育を原則としてすべて無償化、低所得世帯は高等教育まで無償化の対象を広げるとし、来年夏までに結論を出すしております。私たちにとって身近な案件であり財源確保の見直しを含め、単なるプロセスに終わらないで欲しいと思います。

本町の酪農業は、台風などによる牧草への影響が心配されておりましたが、生乳生産量は11月末現在で前年同期を若干下回るものの、生産は回復傾向で推移しているとのこと安堵しております。

漁業においては、太宗漁業のコンブ漁が例年並みの出漁日数を確保、前年

実績を30%を上回る水揚げ量となった一方で、秋サケ、サンマ、スルメイカ漁は全道的な大減産の中、量・金額ともに昨年を大きく下回り、自然の恵みを生業とする私たちにとって大変厳しい1年となりました。

7月に「浜中町大学生アンバサダー事業」が始動しました。首都圏の情報に強く興味をもつ女子大生を浜中町に招き、地域の魅力を全国に向け発信中です。当町の誇れる自然景観や海山の豊かな食材、そしてルパン三世誕生の町として多くの人々が来町されることを期待しております。

懸案であります役場新庁舎建設は平成32年度中の完成を目前に、現在実施設計段階にあり関係機関一丸となって鋭意取り組んでいるところです。

議会といたしましても、12月15日防災対策の課題解決に向け町理事者と共に道庁に赴き要望活動を行いました。

新庁舎が町の「安心・安全」のシンボルたり得るよう、全力を傾注し責任を果たしていかねばなりません。

これからも諸課題解決に向け、思いを一にして一層の審議の深化に努め、皆さまの負託にお答えしていくことをお約束申し上げ年頭のご挨拶といたします。

浜中町議会

議長 波岡玄智

副議長 菊地哲夫

議員 加藤弘二

同 堀金澄恵

同 鈴木誠

同 中山真一

同 秋森新二

同 成田良雄

同 三上浅雄

同 前田光治

同 川村義春

同 田浦哲朗

一般会計
補正予算 2459万円を追加

予算総額 79億6611万円に

12月
定例会
6日～7日

補正予算 審議から

12月定例会が6日・7日の2日間の会期で開かれ、一般会計および各会計の補正と条例改正など（追加議案を含む）11議案が上程され、いずれも原案のとおり可決しました。また、一般質問では、3人の議員が登壇しました。

コンビニ収納実施の成果は

問 これまでのコンビニ収納された実績として、どのくらいの件数を扱って、どのくらいの町税収納があったのか。全体で課税額の何%か。

今後、税外金も増やす計画での補正予算77万円であり、成果はあったと思っている。その実績は。

答 コンビニ収納は、コンビニと郵便局から払えるということなので、今年度から始めた結果、特に姉別地区・茶内地区・浜中地区の町民に相当喜ばれている。

今回、手数料を17万円ほど補正する。当初3000件と予想して予算を組んでいたが、さらに今回2800件分の補正予算を組んだので、想定よりも倍くらいの方が利用。全体で集計した結果、約3割位で、特に軽自動車税は、自動車税と一緒にコンビニで支払うケースが多く10割を超えている。

先日、新聞にも載っていたが、鉦路市も5年経って、やっと30割台になったというところで、まだ伸びると思っている。

印刷製本費の60万円の補正は、来年度から上下水道使用料、公営住宅使用料などを始めるので、そのテストの分となってもいい。それらも一緒になったら、コンビニ収納が増えてくると思っている。

共働きしている人にとっては、大変好評である。



好評なコンビニ収納

給食センター修繕料は

問 配送車修繕料53万円の内容と新給食センターで使用する配送車の台数・車両の使用年数、保管方法は。また、新年度から高校への給食配送が始まるが、今後のスケジュールと町民の見学予定は。

答 配送車の修繕内容は、後部ドアの取り替えと配送車のリアガードを小さく改修するもの。新給食センターで使用する配送車は3台



霧高での試験給食

の予定。
使用車両はきちんと整備されている状況である。現在車庫の整備は考えていないが、近い将来配送車両の更新も考えられるので、現状を見ながら対応していきたい。

また、高校での試験給食を12月に1回、1月に1回実施の予定。調理員の研修も新年度からの稼働に支障が無いように実施していく。町民の見学は考えていきたい。

選別機導入事業の詳細は

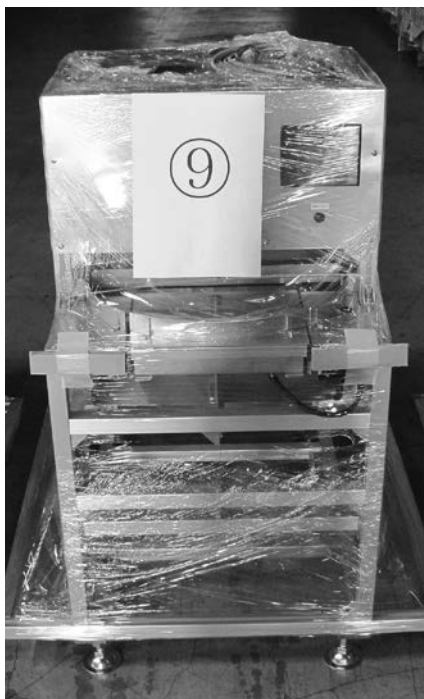
問 コンブ小型選別機導入補助580万円、カキ重量選別機導入補助230万円は、道の補助事業であるが事業内容と実績および今後の予定と町独自の支援策は。また、港湾敷地内で盗難と思われる事案が発生している。管理者として防犯効果の高い監視カメラの設置を検討する考えは。

コンブ小型選別機導入事業補助は、平成27年から3カ年の事業期間で29年度が最終年度である。
導入実績は27年に34基・28年に29基・29年が15基の計68基で、両漁協コンブ漁家の15割程度である。

今後、導入を希望される場合は、全額(78万円)個人負担となる。町単独の支援策は、資金の貸し出しなどで補助は考えていない。カキ重量選別機導入事業補助は新規事業で、浜中漁協所属の漁業者が9基導入するもの。

また、港湾の防犯対策は、要所要所に防犯灯を設置し、陸間カメラで出入りは監視できているが、敷地全ては網羅できない。防犯カメラの設置は、新年度に向けて協議しているが、浜中湾・琵琶瀬湾・暮帰別船入瀬と広範囲なことから、漁協とも協議を重ね対策を考えていく。

答 地域づくり総合交付金を活用した漁業新技術導入事業であり、道の50割補助事業で残り50割は個人負担となる。
また、事業費の下限が500万円以上となっている。



作業軽減が図られるカキ重量選別機

新・農業人フェアの効果は

問 新規就農者誘致に要する経費25万円の内容と就農を目指す人の傾向と思いは。また、最近の離農と新規

答 農水省補助事業の新・農業人フェア（新規就農相

就農の状況は。



農業人フェア（浜中町のブース）

談イベント）で、各自自治体や農業法人などがブースを設け就農希望者との懇談を実施するもので、東京・大阪などで開催される。今回の補正は、大阪会場での出展ブース料と職員1人分の旅費である。

浜中町のブースに来る人には、脱サラや新たに起業を目指す人たちが多く、豊かな自然環境や住みやすさに関心を寄せている。酪農経営を目指すという意味では、就農者研修牧場を中心とした研修体制や就農後の支援体制が充実していることが、浜中町を選ぶ最大の要因とのことである。

現在、研修牧場では5世帯22人（子ども12人）が生活しており、浜中町で新規就農し経営者となることを目指している。過去10年間の離農は46件で新規就農は19件である。近年の離農件数は減少傾向であり、研修生の離農跡地での就農機会も減ることになるが、農協と連携しサポート体制を作っていきたい。

スポーツ振興補助の内容は



練習に励む部員たち

問 町スポーツ振興補助250万円に対し、21万円の追加であるが、その内容と全道・全国に出場した件数は。

15件の競技別内訳は、陸上11件、空手3件、剣道1件となっている。全国・全道大会の内訳は、全国が2件と全道が13件である。今後は、ソフトテニス、スケート、バドミントン、空手の各競技で6大会、9件を予定している。

答 今年の補助実績は、15件で、引率11人、選手43人の計54人分で169万円の助成。

地方バス路線の維持対策補助の増額は

問 くしろバスに対する補助は、去年の実績を踏まえ 当初予算1911万円です算計上されていた。



公共交通を担うくしろバス

今回227万円の追加によって2138万円となる。増額分の主な要因と、今後のくしろバスへの費用負担のあり方、JRへの対応も想定されるので青天井にならないか危惧する。上限の設定などの将来方向は。

答 地方バス路線維持対策補助追加の要因は、燃料の高騰、乗車人員の減少、運行バスの更新で、町の負担が増えている。

加えて、国土交通省の補助制度上、限度額の設定は難しい実情である。

なお、公共交通機関は地域住民の通学あるいは病院、買い物で日常生活に不可欠な移動手段として利用されている。今後、巡回バス、福祉関連の移送、スクールバスなど運行を所管する関係部署と統合的な公共交通ネットワークのあり方を検討したい。

また、地域住民からも意見を聴取し、今後の施策に反映したい。

地域おこし協力隊の募集状況は

問 移住定住対策として1人の地域おこし協力隊員を募っているが現状と業務内容は。

答 現在募集中で、1月から3月までの人件費や消耗品、職員住宅の修繕料、施設備品購入など126万円の予算計上をし、受け入れ態勢を整える

予定である。業務内容は、町外から移住定住に向けて人が来てもらえるような方策を考えてもらうことであり、隊員も本町に定住願えればと考えている。

その他の主な歳出（一般会計）

歳出の内訳	金額
職員住宅改修工事（霧多布一区1棟、三区2棟）	1200万円
道自治体情報システム協議会負担金（ネット回線切り替えほか）	695万円
合併処理浄化槽設置事業補助（5人槽1基の追加）	90万円
林道開設工事（姉別新行線設計変更による追加）	217万円

Ⅱ 専決処分の 報告を承認Ⅱ

■一般会計

下水道事業特別会計において平成27年度および28年度に確定した消費税分の繰出金1272万円と第48回衆議院議員総選挙に伴う経費838万円、斎場の灯油配管油漏れ補修に伴う工事請負費など203万円をそれぞれ追加し、予算総額79億4151万円に。

■下水道事業特別会計

平成27年度消費税修正申告に係る延滞税の納付分として補償、補填及び賠償金57万円と平成27年度および平成28年度消費税の納付分として1215万円を追加し、予算総額4億2453万円に。

補正予算を議決

■特別会計

下水道事業特別会計は、消費税の確定などにより486万円を追加補正するほか、浜中診療所特別会計では、茶内診療所の休所に伴う人件費の組み替えや医薬材料費1150万円を追加するなど5会計の補正予算を議決した。

平成28年度の各会計 決算を認定

9月定例会で設置された決算審査特別委員会（成田良雄委員長）は、10月6日に質問事項を抽出し、11月9日・10日に各担当課に説明を求め質疑を行った。審査の結果、各会計の決算を認定すべきものと決した。なお、審査過程で出された留意点を口頭報告とした。

委員長口頭報告

①防災対策の中でも避難訓練の重要性は東日本震災からも大きな教訓を得ているが、本町における避難訓練の参加者が年々減少傾向にあり、TPOに合わせた避難方法も確立されていない。参加者のアップを図るべく、自治会、学校、企業などと連携し、実施方法の協議・検討を図ること。

また、有事の際はさまざまな状況が想定されることからこれらに対応できる訓練方法、マニュアルづくりの早急な着手を望む。

②ふれあい交流・保養センター（ゆうゆう）は、町民の憩いの場、災害時の避難施設さらには浜中町観光の目玉として、その役割を担ってきたところである。近年は入浴客の減少も相俟って、厳しい運営状況である。

改善のためには、施設のリニューアルはもとより、民間手法を取り入れた運営方法の見直しが必要と考える。

また、併せて他の観光施設、特にキャンプ場について、WiFi環境の整備やトイレの改修などにより利用客の増加が図られると考える。

③ウニ養殖事業の将来像については、稚ウニを安定的に生産するため種苗センターの建設が強く望まれてきた。当初の計画では平成32年度供用開始予定であった

が1年遅れての着手となる予定である。なお台風、津波、流水など自然環境の影響を受けにくい養殖方法を検討してはどうか。本町は農業・水産業の従事者が5割を超え「一次産業のまち」である。一次産業を守っていくことが本町にとっての最優先項目と考える。

町長の強い決意とリーダーシップの基に積極的な取り組みを望む。



避難訓練の様子（ゆうゆう）

条例制定を議決

□浜中町公共施設整備基金
条例

・浜中町公共施設等総合管理計画に基づき、今後の施設整備に必要な財源を確保し、将来の町財政の健全な運営に資するため本条例を新規制定。

□浜中町ふるさと納税基金
条例

・ふるさと納税制度に基づく寄付金を、寄付者の意向に沿った事業の資金として用途を明確にし、活用するため本条例を新規制定。

条例の改正を議決

□浜中町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例

・国が定める道路法施行令の一部が改正され、占用料単価の見直しが行われたことを受け、本町においても本条例の一部を改正する。

条例を廃止

□浜中町土地開発基金条例

・公共用地先行取得することにより、事業の円滑な執行を図るために設置されていたが、土地開発公社が解散していること。

議会を
傍聴して
みませんか！

次の定例会は
3月上旬の
予定です。

基金残高3684万円は、全額を公共施設整備基金に積み立てる。

公共用地の先行取得の必要性が薄れ、今後の活用が見込まれないことなどから平成30年4月1日から本条例を廃止。

全員協議会活動レポート

議会には、2つの常任委員会（総務経済・社会文教）があり、所管事項の調査活動をしているが、議長が主宰する全員協議会で協議検討している事項の報告をします。

新庁舎建設の動向

概算工事費45億円に

11月8日に浜中町役場新庁舎建設基本設計書の説明を受けた。

新庁舎の建設工事費は24億6164万円に加え、停電時に72時間以上連続運転が可能な非常用発電設備工事に2億3047万円、霧多布市街地から新庁舎敷地へ向かう避難道路建設工事に8億2253万円、災害時の救急車や自衛隊などの待機場所やヘリポートとして使用する防災広場建設工事に4億2077万円など。実施設計費を除く合計で45億2217万円となる。

また、11月29日の財源計画説明では、建設時の町負担額は9億2641万円で、起債対象の償還一般財源11億6363万円（3年据置で最長25年償還）と合わせ、町の負担額が20億9000万円程度となる。その際、倉庫建設計画の見直しなど事業費の圧縮を実施設計段階で行うよう指摘した。

新庁舎建設基本設計書では、新庁舎の延べ床面積は、4180平方メートルとし、地上3階建て、鉄筋コンクリート造の免震構造。断熱材で躯体を包み、さらに外側をレンガで覆う「外断熱工法」を採用し、立ち込める霧を連想させる白色系のレンガとやわ



らかい印象の土色系のレンガを組み合わせることで、湯沸高台の景観に違和感なく馴染む庁舎デザインを目指すとしている。

また、実施設計委託は、11月15日に左記のとおり契約し、庁舎建設工事は、平成31年度着工、平成32年度末の完成となり、避難道路は、平成33年度の完成となる。

※役場新庁舎建設工事

実施設計委託業務

- ・契約方法 特命随意契約
- ・受託者 株式会社大建設
- ・業務期間 平成29年11月16日～平成30年6月29日
- ・契約金額 1億5984万円

一般質問

田浦 哲朗 議員



新庁舎建設に係る 財政負担額は

問

一般財源の負担額は 約20億円となる

答

田浦 基本設計での事業費は約45億円と大規模な公共事業である。

町長 本事業での町負担額は、建設時の町負担額約9億円と緊防債対象の償還一般財源が約11億円で総額20億円程度となる。

田浦 町の借金残高約9億円への29年度の返済額は約9億円である。今後、給食センター・茶内保育所建設

などでの借入金を含めた返済額の将来推計は。

町長 茶内保育所で約6億円、給食センターで約7億円の借入額で、返済は33年度から増えてピークは39年度から41年度の12億円強となり、43年度位から現行の9億円台と見込んでいる。

田浦 喫緊の課題である霧多布地区以外の津波避難対策事業や産業振興・子育て支援事業の充実を考え、できる限り事業費の抑制を図っておくべきと思うが。

町長 今後新庁舎建設に係る実施設計の中で各工事内容の詳細を詰めて行く。

将来のランニングコストや工事費も含め、議会との協議の場を持



耐震補強を要する茶内支所

ちながら進めていく。

田浦 本年9月に完成した厚岸消防庁舎の建設事業では、土木工事・建築主体・電気設備・機械設備などの工事工区を分割して発注することで、地元業者の参入を図っている。町内業者参入についての考えは。

町長 地元業者の参入については既に協議検討を進めているが、事業規模からも厚岸消防庁舎の例を参考にさらに検討を重ねていく。

問 茶内支所の耐震診断は

答 耐震補強が必要である

田浦 30年1月10日の納期で耐震診断が実施されているがその経緯は。

町長 数値など正確な診断書はまだであるが、耐震基準は満たされていないとの情報を得ている。ただ、外ブレースの設置など大規模な工事は必要なく、内部補強で対応可能と思われる。

田浦 工事規模に係わらず耐震補強が必要であり、早急な対策が求められる。

また、外壁や内部改修など長寿命化を図るべきでは。
町長 正確な診断結果が提出されてから、補強工事の規模・工法の検討となる。耐震補強工事に合わせ、手狭な玄関・業務窓口の改修に向けた実施設計費を当初予算に計上したい。

一般質問

加藤 弘二 議員



問

町外業者の太陽光パネルを
規制できないか

答

道の景観条例に基づく
規制となる

加藤 最近町外業者による太陽光発電によるパネルが、留まるところを知らず、自然景観を覆い隠し、表土を削つての自然破壊は、動植物の生態を根こそぎ破壊してる。規制はできないか。

町長 すでに建てられた物とこれから建てようとする物を規制するのも難しいので、北海道の景観条例に沿つての規制となる。町独自

の規制は、町民アンケートを取つての対応が前提となる。

加藤 世界的な流れは、地球温暖化の原因となる石炭・石油の規制と脱原発に向かっていると思う。原発は即刻廃炉にすべきである。本町として、今後の電源確保に向け、太陽光発電に

主体的に取り組むことはできないか。

町長 町民アンケートの実施も含め、自然景観保護と合わせ検討したい。

問 不妊治療に
交通費の助成を

答 国や町の助成制度を
活用して欲しい

加藤 結婚しても子どもに



景観を損ねる太陽光パネル

恵まれない夫婦に聞いてみた。5・6人の人たち全員が不妊治療を受けていた。実態をどのように捉えているか。

町長 不妊治療は3つの方法があり、一つは「タイミング法」で、排卵日を予測して自然な受精を期待するもの。費用は5千円から1万円。保険適応で助成はない。二つ目は、「人工授精」で、排卵のタイミングで、体内で人工的に受精させる。費用は2万円から3万円。町の助成が年額5万円。3年を限度にしている。三つめは、「体外受精・顕微鏡受精」。費用は30万円から60万円。国の助成が1回につき15万円、通算3回が限度の助成がある。

加藤 多くの人は、札幌へ治療に行っている。交通宿泊費3万円の助成で夫婦の背中を押してあげて欲しい。

町長 28年度から、町で不妊治療の助成を制度化した利用者はゼロであった。実態があれば交通費の助成も検討したい。

一般質問

川村 義春 議員



問 新年度の 町政執行重点事業は

答 4項目の柱で 必要な事業を推進

川村 平成30年度の予算編成が各課に示達されているが、重点事業の概要は。

町長 地場産業の振興、災害に強い町づくり、子育て支援の充実、学校家庭地域と連携した教育の推進の4項目を柱に総合計画、人口減少対策、創生総合戦略との整合性を図り予算要求をするよう求めている。

川村 4項目の重点事業は

予算査定後になると思うが、水産業の重要施策である「ウニ種苗センター」の建設は総合計画上、2年遅れである。今後の見通しは。

町長 当初計画では、平成30年度実施設計、31年度建設の予定。本年度は建設地の地質調査や稚ウニの育成試験などを行う予定が諸事情でできなくなった。

現時点では、1年遅れの事業実施で供用開始は平成33年の予定である。

川村 防災対策の避難道や避難タワーの建設計画が遅れているが今後の予定は。

町長 丸山散布地区の避難道は、基本設計業務委託を本年度実施。今後は地元と協議の上、平成31年度の事業化に向かいたい。

避難タワーの建設は、道の複線化などを優先し、その後の対応となる。

川村 避難タワーの建設までの間、逃げ遅れた住民の命を守るため、国土交通省が開発した25人乗りの「救命艇」1艇1200万円、4艇で4800万円を琵琶瀬、仲の浜、新川、暮帰別

に配置しては。

町長 救命艇に関しては検討したいと考えている。

川村 災害時や観光、産業振興で活用できるドローンの導入は、昨年12月定例会で検討を約束。新年度で予算計上する考えは。

町長 防災だけでなく多方面で活用する視点で考えている。1機130万円位で購入でき、付属のカメラも40万円前後である。管理先をどこにするかも含め、新年度で検討したい。

問 産業後継者就業 交付金の拡充を 規則の見直しを 柔軟に対応したい

川村 本年4月から施行の

就業交付金制度の創設は有意義であり、大変喜ばれているが、町外転入者の要件を町内で就職している人が後継者となる場合も対象とするよう交付規則の見直しを求めたい。

町長 産業団体との意見を踏まえ、規則の見直しを検討し、柔軟に対応したい。



導入が待たれるドローン

雲外蒼天

「浜中学」を学んで

霧多布高等学校
3年B組

荒矢

麗奈



霧多布高校入学当時は、この町についてほとんど知識がありませんでした。「浜中十景」があつたことや「浜岬」の物語、浜中町内の地名も把握していませんでした。それから3年間、浜中町の産業・文化・自然そして課題を学び、調べ、その内容を発表しました。なかでも、3年生で取り組んだ「浜中町の漁業の支援」についての調査は特に印象に残っています。

浜中町は現在人口減少が続くなかで、漁業者の後継者不足という課題に直面しています。何をしたら若い世代の人口流出を食い止める

スポーツに親しみ、健康で楽しい
まちをつくりましょう。
(町民憲章より)



シーズン到来 (町民スケートリンク)

ことができるだろうか、どんな制度があれば後継者育成に役に立つのか、班員のみんなや先生方と協力し、2年間で学んできたことを活かして考え出したのが、「フィッシュヤーマンズ・ステイ制度」でした。時間に余裕のある団塊世代の退職者や学生に漁業を体験してもらい、短期移住から始めて町の暮らしの良さを理解してもらい、将来的に定住による人口の増加と就労支援につなげようという内容です。この考えを、浜中学の報告会や札幌で行われた「高校生プレゼンテーションコンテスト」で発表できたこと、また、コンテストでは優秀賞を頂いたことも大きな自信になりました。

最後に、若年世代が安易に故郷を去ることなく、町の発展に寄与することや魅力を発信する活動を継続すること、そして将来の浜中町を担う者として課題意識を維持することの大切さを「浜中学」を通して学びました。そして、学びを土台にして自ら考えたことを発信していくことで、初めて何かが生まれたり動き出すこ

とも体験できました。「浜中学」で学んだこの姿勢を今後の生活に活かしていきたいです。

- 揮毫 書道部3年B組 野崎 千樹さん
- 読み方 うんがいそうてん
- 意味 困難を乗り越え努力して克服すれば快い青空が望めるという意味



表紙の写真

12月15日に姉別農村環境改善センターにおいて姉別保育所の「親子もちつき会」が行われました。子どもたちもお父さんやお母さんと一緒にべったんべったんおもちつき。出来上がったおもちはお母さんたちの手によってお雑煮やあんこ餅に大変身。子どもたちも自分でお餅を丸めチョコ餅を作りました。

気忙しい年末に絵顔が溢れるひとときでした。

あ
と
が
き

新年あけましておめでとうございます。

近年の温暖化の影響を象徴するかのよう、昨年台風や低気圧通過に伴う強風の影響から生活施設などに損害があったところでもありません。

漁業関連では昆布の生産は昨年実績を上回ったものの、秋さけ定置網漁業が過去に例のない低水準での水揚量となり、原因の解明が急がれるところでもあります。

農業では、前年の生乳生産量を若干下回るものの順調な生産がされていると聞いており、今後の生産に期待するものがあります。

町民が切望しております浜中町役場庁舎の高台への新築移転事業が具体化し、新庁舎建設に避難道路や防災広場などを加え概算工事費45億2200万円となる事業案となり、平成31年度に着工し、避難道路を含めた完成が平成33年度と示されました。「災害時の町民の命を守り」「災害に強いまちづくり」のため役場新庁舎の早期完成を願うところであります。(委員 三上)